

英語科学習指導案

日 時 平成26年6月5日(木) 公開授業Ⅱ
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
3年B組 40名
会 場 2C2D 教室
授業者 中野 誉 史

1 単元名 LESSON 3 “*Rakugo Goes Overseas*” (NEW CROWN ENGLISH SERIES 3)

2 単元について

(1) 生徒観

生徒はこれまで、「英語はことばである」という意識のもと、様々な表現活動に取り組んできた。昨年度4月当初、表現活動の際に文法が一番大切だと思っている生徒が49%<N:39>であったが、現在は100%<N:40>の生徒が「相手を意識して思いを伝えること」が一番大切だと感じている。また、まとまった英文を読み内容を理解する学習や、まとまった英文を書くという活動、さらには新しい言語材料・表現を習得する学習の際にも、その先にある自己表現活動を意識しながら取り組んできている。そのため、正しい英語を書くことに自信をもてない生徒でも、間違った英語でもなんとか思いを伝えようとする意欲は高まっている。また、習得した知識や表現の活用を意識しながら学習に取り組む姿勢が身についてきたと感じる。本単元においても、新言語材料の習得から読み取りの活動における一連の学習で、最終表現活動を常に意識させながら学習に取り組ませたい。

また、本単元で学習する「現在完了形」については、継続用法を前単元で学んでいる。「現在完了形」については、ある過去の時点を表現する「過去」に対して、現在を含むある過去の時点からの時間の幅を表現しているものであり、その現在完了形で表現されていることや時間軸をイメージしにくいことも考えられる。事前調査において、前単元で扱った「継続」、「期間」、そして「現在を含む時間の幅」を自分の中にイメージできている生徒が多いが、それをイメージできずに、「過去」と「現在完了」の表現の適切な活用に自信をもてない生徒も少なからずいる。したがって、時間の幅について、図示などしながら視覚的にイメージできるよう工夫したいと考える。本来現在完了形という表現がもつ意味合いを、これまでの過去の表現との比較から生徒がイメージしやすい場面や図を用いて指導にあたりたい。また、本単元でも言語材料の使用場면을適切に指導し、繰り返し活用させることで定着させる必要がある。

英語はことばであるということをも改めて意識させ、「英語を活用して主体的にコミュニケーションを図ることがができる生徒の育成」を図りたい。また、英語を使用する喜びを感じさせるために、ペア活動やグループ活動など協同的な学びを効果的に取り入れ、指導にあたりたい。

(2) 教材観

この単元では、言語活動として、インタビュー活動を通してプロフィール表をまとめ、紹介記事を書くという活動が組み込まれている。自分たちのことばで表現するということは、生徒たちにとって非常に興味・関心を引き、意欲を喚起するものと思われる。

また、題材内容として日本の伝統文化である落語を取り扱っている。落語は生徒にとって馴染みのあるものとは言いがたい。落語についての知識といえば、テレビで放映されている「笑点」を挙げる程度で、落語というものをじっくりと観賞したことのある生徒はほとんどいない。本文を通して、落語を日本の伝統として世界に発信している女性の存在を知り関心を高めるとともに、さらには英語落語に挑戦するなどして少しでも落語の魅力を感じさせたい。また、一人二役の落語を演じさせることにより、表現力の向上を図りたい。

言語材料としては「現在完了形の経験用法・完了用法」を扱う。LESSON 2で既に「現在完了形の継続用法」を扱っているため、そこで習得した基本形<have (has) + 過去分詞>や時間の幅のイメージを想起させた上で、LESSON 3の経験用法や完了用法へとつなげていきたい。しかし、一つの基本形で三つの違う用法をもつこの表現は、生徒にとって混乱をまねきやすいものである。そのため、繰り返し練習させることで意味・構造を定着させ

ることはもちろん、導入時において「時間の幅」を明確にイメージさせながら、それぞれの用法の定着を図ると同時に、それぞれの用法を関連づけさせながら、さらなる定着を図りたい。

(3) 学びの自覚化について

本校英語科における「学びの自覚化」とは、「学び」を変容ととらえた「自己の変容の自覚」である。

本単元では、特に「自己の変容の自覚」を図る指導を行いたいと考える。本校英語科で取り組んでいる活動の一つが、学年ごとに年間を通した表現活動テーマを設け、それと同じ題材で英作文活動を行ったり、それにつながる表現活動を年間を通して段階的に行ったりするというものである。また、それぞれの単元においては、教科書題材に関連させた表現活動を取り入れている。その中で、年間テーマと単元をどのようにつながりをもたせることができるか考えている。本単元では、現在完了表現を英語で表現させることにとどまらず、インタビューにより得た情報を英語で表現させ、3学年の年間テーマである“English for Me”につなげたいと考える。また、生徒同士での学びあいを取り入れながら、「学びの自覚」を促し、コミュニケーション能力を総合的に高めていきたい。以上のことを踏まえて、主な手立てとして以下の内容を掲げる。

①年間及び単元の構想の工夫とそれらの生徒との共有（シートの活用） ②IT機器の活用

① 年間及び単元の構想の工夫とそれらの生徒との共有

「自己の変容の自覚」とは、1単位時間や単元、年間の学習における自分の変化、考えの変化を自覚することで自らの学びを主体的にしさらに高めることである。その変容がどうして起きたのか、その過程に気づくことでさらに主体的に学習に励むことが期待されると考えた。英語科の教科特性により、生徒は徐々に言語材料が身につく、スパイラルに学習を積みかさねることで、活用できる英語も増えてくる。そのため、年間や単元を見通して計画的にフィードバックを取り入れ、「学びの自覚化」に迫りたい。そのため、単元のデザイン、ゴールの表現活動を学習前の段階において生徒と共有したいと考える。また、英語を通して表現したものや他者とのコミュニケーションの中で、自分の課題や変容を感じさせ、自覚させたい。そのための手立ての一つとして、これまで本校英語科として改良を重ねてきた学習履歴シートを活用したい。この学習履歴シートには、学びの足跡を自分の言葉で書き記させるとともに、この単元の学習に入る前の自分の英語表現を書き残させておき、学習後の最終表現活動の自分の表現と比較させることで、自分の表現力の向上を自覚させる。また、これは単元や年間を通した最終表現活動への意識付けにも効果的だと考える。

本単元では、インタビューを通して得た情報を新聞記事として英語で書くことを最終表現活動として行う。この単元に至るまでの学習を通して、「自分の情報を相手に伝える」スピーチ活動から「自分の情報や思いをより効果的に相手に伝える」スピーチ活動と段階を経て表現活動を行ってきた。今回の活動を行う上で、これまでの学びを今回の活動に活かしたい。そして、今回のこの学びを経て、年間テーマ“English for Me”へとつなげたい。

② IT機器の活用

IT機器等を利用して、ゴールの表現活動（おもにスピーキング活動）はもちろん、完成に至るまでの過程を映像に収め、それを授業の中で活用したい。

過程における映像については、自分たちの発表等を改良する際にクラスメイト同士の交流を大事にしながらも、自分たちの発表を客観的に映像で見ることにより、新たな気づきを得ることができ、よりよい作品づくりに活かすことができると考えた。また、最終的な発表と見比べることで、自分たちの変化を客観的に見つめ直すことができると考える。

本単元では、インタビューを行う際の自分の様子を記録し見ることで、特にも相手のことばに対する反応や話のひろげかたに焦点を絞って改良させたい。

3学年の年間テーマ“English for me”の表現活動に至るまでの学習デザイン

時期	主な行事	総合学習	単元	主な言語材料	主な題材	主な表現活動	
オリエンテーション「今年度の英語学習について」							
前期 (四月～九月)	入学式 対面式	3学年「生き方を考える」 テーマ『「未来を拓く生き方」とは、どのような生き方か』	Lesson1	受動態	ことばの持つ力 私の好きなことば	"My Favorite Words" ・相手意識 (Speaking) ・スピーチの構成	
	写生会		Lesson2	現在完了(継続用法)	異なる自然 異なる文化 インタビューを聞こう あこがれの人物	"English for Me" ・相手意識 (Writing) ・既習事項全て	
	市中総体		Lesson3	現在完了(経験用法) 現在完了(完了用法)	日本の伝統 文化の発信 先生にインタビュー	"大学生にインタビュー" ・相手意識 (Speaking) ・大学生にとっての英語とは? ・期間や理由を尋ねる	
	学習旅行		Lesson4	S+V+O+C It is ~for A to do構文	広島原爆 報道番組に挑戦 大切なことを伝えよう	"私の願い" ・世界の平和を考える ・世界の中における日本 ・主張の仕方	
	県中総体 夏季休業		Lesson5	関係代名詞	世界の家と生活文化 日本紹介	"English for Me" ・相手意識 (Writing) ・既習事項全て	
	市中陸上 生徒会役員選挙 スポーツ大会		Lesson6	現在分詞の後置修飾 過去分詞の後置修飾 接触節	アメリカの公民権運動 尊敬する人物を紹介しよう	"様々な国の生活スタイル" "My Hero" 尊敬する人の紹介文 ・相手意識 (Writing) ・わかりやすく伝える ・関係代名詞や後置修飾の活用	
	後期 (十月～三月)		文化祭	Lesson7	間接疑問文 want+人+to do	創意工夫と社会貢献 チャットを楽しもう	"English for Me" 【Reading】
			冬季休業 本校入試 私立高校入試	Lesson8	how to~ what to~	英語を学ぶことの意義 未来の自分へ手紙を書こう	"English for Me" ・相手意識 (Speaking) ・3年間のまとめ ・英語学習から得たこと ・今後の自分
			公立高校入試	Let's read 2	読み物	物語文を読む	
			卒業式	卒業スピーチ	3年間のまとめ	想いを伝える	

3 単元の指導目標

(1) 指導目標

- ①相手の考えや思いをひき出すようなインタビューをできるようにする。
- ②インタビューで得た情報を紹介記事として書くことができるようにする。
- ③英語での落語を相手に伝わるように、抑揚やジェスチャーに意識させ、暗唱させる。
- ④現在完了形（経験用法・完了用法）を用いた文の意味・構造を理解させる。

(2) 評価規準

外国語表現の能力	<ol style="list-style-type: none"> ① 初対面の方にインタビューをし、考えや思いをひき出すようなインタビュー活動ができる。 ② インタビュー活動で得た情報を紹介記事としてまとめることができる。 ③ 英語の落語を相手に内容が伝わるように、抑揚やジェスチャーに気をつけて暗唱し演じることができる。
言語や文化についての知識・理解	<ol style="list-style-type: none"> ① 現在完了形（経験用法・完了用法）を用いた文の意味・構造を理解している。

4 単元の指導計画および評価計画

時間	主な学習内容と学習活動	評価規準	評価方法
1	<p>○本単元で学ぶ題材や身に付ける文構造を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習履歴シートを用いて、オーラルイントロダクションを用いながら、着物の女性が何をしているか、会場の人たちがなぜ笑っているかなどについて述べ合う。 ・本単元で身につける技能や理解する内容を知る。 ・本単元のゴールの表現活動を確認し、関連した活動をその時点の英語力で挑戦する。 <p>○対話文の内容を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題は何なのかを確認し、エマが伝えたいことを読み取る。 ・教科書本文を音読し、暗唱する。・会話の続きを考える。 	表①	VTR撮影 (形成的評価の段階)
2	<p>○現在完了形（経験用法）を用いた文の意味・構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在完了形（経験用法）を用いて、自分の経験を伝えたり相手の経験を尋ねたりする練習をする。 ・スミス先生が行ったことのある場所を聞きとる。 ・ペアでお互いが行ったことのある場所をたずね合う。 ・尋ねたことをもとに、第三者に伝える英文を作成する。 	言知①	後日ペーパーテスト
3 4	<p>○現在完了形（完了用法）を用いた文の意味・構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在完了形（完了用法）を用いた文の構造を理解する。 ・現在完了形（完了用法）を用いて、行動や状況を説明する練習を行う。 ・教科書本文を通して、エマのおこなった小唄の内容を理解する。 ・教科書外の落語の小唄を読む。 ・英語の落語を視聴する。 ・教科書本文を音読練習し、暗唱する。→Role Playを行う。 	言知① 表②	後日ペーパーテスト VTR撮影 (形成的評価の段階)

5	○ <i>Rakugo Goes Overseas</i> を読んで、インタビューについての概要や ・大切な部分を正確に読み取る。		
6	・落語や落語の特徴について知っていることを話し合う。		
7	・本文を精読し、英問の答えやpost-readingについて考える。 ・希田江さんにとっての英語とは何かを考える。 ・インタビューア－の話の聞き出し方、相手の話に対する反応の仕方を 知ることが出来る。 ・インタビューの要点をまとめ、インタビュー記事を作成する。 ○本文のインタビューをもとに新聞記事にまとめる。 ・音読練習をする。・マッピングを参考にリテリングをする。 ・Retellingしたことを書き出す。		
8	○大学生にインタビューを行う。(1/5) ・ゴールの確認(紹介記事) ・インタビューの構成を考える。 ・大学生にインタビューする前に、今の時点での自分の“English for Me”を見つめ英語で書く。		
9	○大学生にインタビューを行う。(2/5) ・Follow Up Questionsを意識したインタビュー項目を考え、交流す る。 ・ペア及びグループでインタビュー練習を行い、改良する。		
10	○大学生にインタビューを行う。(3/5) ・Ice Breaking を意識したインタビューの導入を考える。 ・ペア及びグループでインタビュー練習を行い、改良する。		
11	○大学生にインタビューを行う。(4/5) ・生徒同士で本番に近い形でインタビュー活動を行う。 ・インタビューをよりよくするためにどうしたらよいか交流し、再度 インタビューを行う。(重点: Response)		
12	○大学生にインタビューを行う。(5/5) ・大学生にインタビュー活動を行い、大学生の“English for me”に迫る。	表①	インタビューの観察 VTR撮影
13	○大学生についての紹介記事を作成する。 ・インタビューの結果を整理する。 ・紹介記事を作成する。 ・グループで紹介記事の交流を行う。	表②	紹介記事
14	○単元のまとめを行う。 ・現在完了形(経験用法・完了用法)を用いた文の構造を確認する。 ・不定詞の副詞的用法(感情の原因・理由)を確認する。 ・単元ペーパーテストを行う。 ・落語の暗唱発表会を行う。	言知① 表③	単元ペーパーテスト VTR撮影

5 本時について

(1) 主題 「 Let's interview university students ~ What's English for you? ~」

(2) 指導目標

Response を意識させ、相手の考えや思いをひき出すようなインタビュー活動を行うことができるようにする。

(3) 本時の評価

- ① 本時では形成的評価は行うが、総括的評価は行わない。後日作品により評価を行う。
- ② 本時は単元の中では11時間目にあたる。本時の指導目標は単元における外国語表現の能力の指導目標と同じである。ただし、本時のみでこの目標を達成するものではない。あくまでも次時を含めた単元の終了時にここまでの力を付けさせたいと考える。そこでインタビューを録画したものの内容により総括的な評価を行うこととする。本時での形成的な評価として、外国語表現の能力の段階のとらえは以下の通りと考えている。

外国語表現の能力単元目標①に関する形成的評価段階のとらえ	
4時間目まで (GETの段階)	<ul style="list-style-type: none"> ・「今まで行ったことのある場所と回数」について英文でたずねることができる。 ・現在完了形（経験用法・完了用法）の学習をふまえ、パターンプラクティス段階の英文を1文から2文程度書くことができる。
7時間目まで (USEのRead段階)	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー記事の要点をまとめることができる。 ・Readの本文を本人になりきって音読することができる。 ・本文を新聞記事としてまとめることができる。 ・インタビューアーの話の聞き出し方、相手の話に対する反応の仕方を知ることができる。
8時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルの紹介記事を読みゴールのイメージをもつことができる。 ・自分の“English for Me”を書くことができる。
9時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・Follow Up Questions を意識したインタビュー項目をグループで考えることができる。
10時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・Ice Breaking を意識したインタビューの導入を考えることができる。
11時間目 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の考えや気持ちを引き出す工夫を考え、それをもとに生徒同士でインタビューをすることができる。【重点：Response】
12時間目	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生に対してインタビューを行い、相手の考えや思いを引き出すことができる。【大学生に対しての話しかけ方、自己紹介、インタビュー内容、考えを引き出す工夫】

(4) 指導の構想

本時は、単元USE Mini-project から発展させた表現活動の4時間目（単元11/14時間目）であり、大学生へのインタビューに向けた改良の時間と位置づける。

インタビューを行うにあたって、相手の気持ちをいかに引き出すかという点に焦点をあてて改良させたい。コミュニケーションは相手あってのもので、それはSpeakingにおいてもWritingにおいても変わらないものである。よって、本単元の最終表現活動は、相手の考えや思いをひき出すインタビューとそこでひき出した情報を記事にまとめるという活動を通して効果的な指導を行い、「相手意識を高める」機会としたい。なお、ただ単に相手から情報を聞き出すだけではなく、インタビューする際には自分自身のことを伝えさせるとともに、その生徒自身の英語に対する考えを深めさせる機会としたい。そして、3学年の年間表現活動テーマ“English for Me”へのつながりを意識した指導を行いたい。

インタビュー活動については「学習指導要領の内容（1）言語活動 イ 話すこと（エ）つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。」を重点的に指導する。この「いろいろな工夫」の中では、特に「会話を始めたり発展させたりするために、相手に質問することや、「相手が話しやすいように、I see や Sure など、相づちをうつ表現を適宜用いる」ことを意識させたい。本時はクラスメイトとの交流を通して、どうすればよりよくなるのかを見いだし、それをもとに次時のインタビューに向かわせたい。また、本単元の最終的な活動は大学生にとって英語がどんなものかというものをインタビューによって聞き出し、それをもとに新聞記事にまとめるという活動であるが、相手にとっての英語を聞き出す前に、自分自身にとっての英語について考えをもってインタビューに向かうことが大切だと考える。そのためそれまでのステップとして、自分自身の現在の考えを見つめる活動、そして相手の考えに触れて自分のものに生かす活動としても位置づけたい。そして、それをもとにグループでの交流やコメントを与え合うことで学習の幅を広げ、その後新聞記事の作成、さらには年間最終表現活動につなげたいと考える。また、本時の学びによる自分自身の変容を捉えさせ、学びの自覚に迫りたい。

(5) 本時の展開

段階	学習内容及び学習活動	時間	■学びの自覚化との関わり
導入	0. 3分前学習 ・英語の歌“LET IT GO”を歌う。		
	1. あいさつ 2. 活動の目標確認 ・取り組んでいる活動は何か、何のために行うのかを再確認し、本活動の目標を再確認する。	2 1	■活動の目的、課題を捉える。
	「 Let's interview university students ～ What's English for you ? ～」		
展開	3. 本時の目標確認 ・本時の目標を確認する。		■本時の目的、課題を捉える。
	Be a better interviewer ～ Challenge and Improve ～		
	4. インタビューに挑戦 ① ・生徒同士でインタビューを行う。 ・インタビューを見た生徒からコメントをもらう。 ・グループ内でそれぞれの立場から感じたことを交流し、改良を図る。 5. 改良ポイント確認 ・今までの学びなどから、どのようにしたらよりよいインタビューになるか考える。 ・2種類のインタビューを比べ、Responseの重要性を感じ取る。 ・今までの学びからResponseの例を挙げる。 【自分の考えを伝える、繰り返し】 (例) A: Do you like sports ? B: Yes, I like sports. A: <u>Really? I like soccer very much.</u> So, what sport do you like? A: I like tennis. B: <u>Oh, you like tennis? great! . . .</u> 6. 改良 (練習) ・各グループでよりよいインタビューを意識して練習する。 7. インタビューに挑戦 ② ・改良ポイントを意識して、再度生徒同士でインタビューを行う。 ・インタビューを見た生徒からコメントをもらう。 ・グループ内でそれぞれの立場から感じたことを交流し、改良を図る。 8. 変容の自覚 ・ある生徒の改良前と改良後のインタビューのビデオを、改良ポイントを意識しながら見ることで、変化を感じ取る。 ・自分のインタビューどのように変化したか、そしてその変化がなぜ起こったのか、自分たち自身で見つめる。	12 10 4 12 3 5	■実際にインタビューをしてみて、上手くいった点や上手くいかなかった点を感じ取る。 ■生徒同士の交流やこれまでの学びから「インタビューする際」のポイントを確認する。 ■改良ポイントを意識しながら自分たちのインタビューを見つめなおさせ、改良する。 ■改良ポイントを意識して実際にインタビューをしてみての変化を感じ取る。 ■クラスメイトの変化を通して、それぞれが本時の学びを実感する。 ■本時の改良によってどのような変化が起こったか、客観的に自分たちを見つめる。
終結	9. あいさつ	1	

